
転生したけど引きこもります。

こ～ぶ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

転生したけど引きこもります。

【Nコード】

N7095Y

【作者名】

こゝふ

【あらすじ】

死んで異世界に転生することになったミコト。ヴァンパイアになったのはいいけどまさかの引きこもり種族だった事実のうちめされつつ、仲間と陽光が届かないダンジョンでモンスター退治に勤しんだり、遮光カーテンを閉めた暗い室内で裁縫したり。引きこもり街道まっしぐらにがんばります。（作者は初心者です、誤字脱字があると思いますので見つけたら教えてくださると嬉しいです。また第一話の前書きは必ずお読みくださいますようお願い致します）

第一話「アナタ ハ シボウ シマシタ」(前書き)

はじめまして、この度はお読みいただきありがとうございます。

当小説は蘇我捨恥様の「異世界迷宮で奴隸ハーレムを」に作者がインスピレーションを受け執筆したものです。

従っていくつか類似する設定が出てくる場合がございますことをご了承ください。

また、蘇我捨恥様より削除してほしいといわれた場合は掲載を取り止めることになっております。

以上のことを踏まえた上で稚拙な文章を読んでくださるという方のみご購入ください。

第一話【アナタ ハ シボウ シマシタ】

白い空間と言うしかない世界で、私は独りぽつんと呆けていた。

【アナタ ハ シボウ シマシタ ツギ ノ セカイ ヲ センタ
ク シテ クダサイ】

目の前に浮かぶ文字と数多の選択肢っぽい単語がここは夢なんだろうか？と思うが…。

【アナタ ハ シボウ シマシタ】

その言葉に思い出されるのはこの空間に来る前に感じた激しい痛み。最近頭痛が多かったのは肩こりとか目の疲れだと思っていたが、まさか病気だったんだらうか？

って！ なに素直に受け止めてるんだ私っ！

どう考えても夢だつての！

小説の読みすぎかなあ、死んで転生とかテンプレすぎるわ。

うん、夢だと思ったら気が楽になってきた。

【アナタ ハ シボウ シマシタ ツギ ノ セカイ ヲ センタ
ク シテ クダサイ】

うーん、改めて目の前の文字と選択項目見てみたけど夢だからかつつか夢なのに選択肢多くない？

人種、文化、魔法、科学、国数に戦争頻度あとは魔物？

これ全部選んでるうちに夢から覚めそう。

まあ、こういう設定考えるの大好物だから良いけどね！

まずは人種の項目は人族・亜人族・魔人族かあ、全部欲しいから全部って2つまでかよっ！

うーん、じゃあさよなら魔人族……しくしく。

次は文化つと…あー文化の数かあ、意味わかんないしっ！

あつ日本文化とかそう言う特色かな？1〜48の間か…あんまり多くても面倒だし12ぐらいでいいかあ。

魔法と科学は各0〜10で足して10以内にするのか……夢の中なのに細かい設定だな私っ。

魔法3で科学が1にしとくか、科学0とか現代っ子は死ねるしね！まあ、1がどんぐらいのレベルか知らないけど。

後は国数と戦争頻度か、国数は15〜20を選択して戦争頻度は10段階の3に設定っと。

魔物はダンジョンかフィールド……、あつ両方でも良いのか。

両方を選択して決定する。

【セカイ ノ セツテイ ヲ カクニン シマシタ ツギ ノ セ
ンタク ニ ススンデ クダサイ】

文字が変わってまた選択肢が出てくる、ゲームで言うところのキャラ作成のような感じかな。

種族選択、性別選択から始まり、年齢と容姿に体型かあ、ちょっとダルくなってきたかも…。

亜人族は選ぶ度にランダムでさらに種族が出てくるのか、まあエルフとかドワーフ、犬耳系とか猫耳系とかみたいな感じね。

…

…

…

…

…

…

…

……うー、決まらない。

ウサギ耳も良いし猫耳も良い！だがエルフも捨てがたい。
ちなみに種族によってレア度が有るみたい。

人種が したら犬耳と猫耳やら良くあるよねーってのが
エルフとかドワーフが 。

龍族とか精霊っぽいのが

まあ、そんなものだよねーっと思いつながら選択し直し続ける。

…
…
…
…
…
ん？

【亜人族 ヴアンパイア ー】

おっおっおー！
キタンじゃない？
いやキテるでしょっ！

ヴアンパイアとかマジ素敵っ魔人族選ばなかったから諦めてたけど
亜人カテゴリーだったかヴアンパイア！
モチロンこれに決定でしょ！

性別は女でいいとして容姿かあ…。

…
…
…
…
…
…
…
…
…
…
…

こんな感じ？

腰まである黒髪ストレート、前髪はワンレングスで目は黒。
身長は150cmぐらいの小柄。

胸はまあ程よくくぐらい？

細身で顔はヴァンパイアのデフォなのかきつい顔が基本設定だった。まあ、いじりにいじって二重のパッチリ目、だけど全体的に儂い系。設定だからだろうけど無表情がコワイ。

まあ、なかなか満足のいく美少女に仕上がったからこれで決定つと。

【コジン ノ セツテイ ヲ カクニン シマシタ ノウリョク
ボーナス ヲ センタク シテクダサイ】

敢えて言おう、まだ続くのか！！

文字の下に現れたのはゲームのスキル画面みたいなもの。
ボーナスポイントは種族選択のように選ぶ度変わって1〜99まで
あるみたい。

… 54、もうちょっと

… … 18 論外

… … … 25 まだまだ

… … … …

さっきから20〜35あたりをいつたりきたり。

さっきの54で妥協すべきだったかな？

…
…
…
…
…
…
…
…
…
…
…

何回選びなおしたか麻痺した頃目の前の選択肢が光った。
正確には数字が光った。

【ボーナスポイント 99】

ふっ勝ったぜっ！ もちろん迷わず確定する。
ガッツポーズをとってふと気がつく、いつこの夢から覚めるんだろ
う？

第一話「アナタ ハ シボウ シマシタ」(後書き)

3話まで連続で投稿します。

第二話「とじろでいって夢ですよね」(前書き)

いまだに異世界にたどり着いてない件…。

第二話「とじるでこねって夢ですよね」

いい加減目が覚めてもいいんじゃない？ってぐらいには時間が経ってる気がする。

まさか本気で死後の世界？

いや、ないない。

ない、よねえ？

【ボーナスポイント ヲ フリワケテ クダサイ】

相変わらず無機質で読みづらい文字が浮かぶ。

ハイハイ、んつとまた項目多いなあ。

取得経験値二倍（3P）と成長率二割増加（3P）は必須だよね。

選ぶと取得経験値四倍（6P）と成長率四割増加（6P）の項目がある。

さらにそれぞれを選ぶと取得経験値八倍（12P）と成長率八割増加（12P）が出てきたので選んでみる。

それぞれの項目が白くなってそれ以上は出なかった。

これで42Pも使うのかあ。

あとは……ん？

なにこのボーナスポイント再振り（12P）って？

んーあれか、ネットゲとかにあるステータス再振りみたいな？
よし、迷わず選択。

これで54P使用、残りが45Pつと。

あと使えそうなのは…、鑑定(3P)

テレポート(3P)

第二ジョブ設定(3P)、第三ジョブ設定(6P)、第四ジョブ設定(12P)

残り18P。

うーん、ジョブ設定削ろう。

第四ジョブ設定(12P)無くして、残り30P。

ボーナス武器・槍1(3P)、ボーナス武器・槍2(6P)、ボーナス武器・槍3(12P)

ボーナス装備・指輪1(3P)、ボーナス装備・指輪2(6P)

これで使い切ったかあ。

よし、決定つと。

【セッテイ ヨ カクニン シマシタ】

その文字に満足する。
時間かけたし感慨深いなあ。

んで、どうなるんだろう？

「その設定で異世界行くに決まっておる」

……………は？

「この度は我が管理下の第107805世界を選んでくれて感謝する」

だれ、この人。
突然目の前に現れた人を凝視する。

「我は世界の管理人じゃ、おぬしを我が管理世界に導こう」

あー、テンプレの神様こないと思ったらここで来たのかあ。

「神ではなく管理人じゃがな」

…考えてることが読まれてるパターンですね、わかります。

「うむ、理解が早くて助かるの」

とりあえずお約束の状況説明を希望します。

「おぬしは死亡した。そして今行っておった世界選択に失格せずに我が管理世界を選択した、故に連れて行くのじゃ」

淘汰ってなんだ、不穏だなあ。

「世界選択において該当世界が空いていない、もしくは技能レベルが最大となった世界選択をした場合は元の世界の輪廻に戻るのじゃ」
空いていないって言う意味が分からないんだけど、あとなんで技能レベルが最大だとダメなの？

「空きは空きじゃ、異世界より呼び込まれるのは世界ごとに決まっておるからのう。」

技能レベルが最大の世界は飽和世界となつて、基本的に滅びるからじゃ」

へえ……、ところでこれって夢ですよね。

「夢ではない」

……………ねーよ。
ないない、妄想おつたよ。

「だから現実じゃ、おぬしの場合今から行く世界で死んだら魂がおそらく消滅する」

なんでさー！

「ヴァンパイアは不老長寿、繁殖力が酷く乏しいゆえに次代をなかなかつなげられぬのじゃ」

だから？

「お主の血縁がおらぬのでは魂は世界に耐えられずに消滅する」

……すみません、召喚じゃなくて転生なら両親とか親類いるんじゃないの？

「おらぬ、ヴァンパイアは世界が生み出すものとなっておる、したがって赤子の時期はなく先ほど作成した姿で転生となる」

さすがレア度　　だねっ！

他にもヴァンパイアっているの？

「5000人ほどのか」

少なっ！　世界の広さと人口知らないけどね。

「まあそれはいつてからののお楽しみじゃ」

ふーん。

で、いつ夢から覚めるんだろう？

「だから現実じゃ、おぬしは死んでおる」

じゃあ死因はなんだ！

心臓発作か？脳梗塞か？！

「銃弾で頭を打ち抜かれて死んだのじゃ」

なんでさ！

「流れ弾と言うものじゃな」

最悪だっ！

死因最悪すぎるだろー！！

…

…

…

…

…

…

…はあ。

「諦めがついたかの」

とりあえず、死因聞いたら色々浮かんできましたから。
死ぬ直前の色々がっ。

「では行こうかの、おぬしの名を名乗るがよい」

「果^{かがり}雁^{かり}みごと、ついでに享年36歳」

「うむ、享年は別に要らんのだが」

なんとなく言ってみました。

「まあよからう」

うん、気にしたら負けってやつです。

「世界とおぬしを繋げたぞ、我から特別に行く世界の10歳ぐらいの幼子が知ってる常識を与えよう」

まじかつ！

神様優しいね。

「神ではなく管理人じゃ」

オツケー、管理人様優しいねっ！

「では、行ってこい」

行ってきます。

第二話「とじろとじわって夢ですよね」(後書き)

あと一話投稿して今日の分は終わりです。

第三話【陽光下での身体能力60%減】（前書き）

やっと異世界に到着。しかし自分でかくのって大変ですね。。。

第三話【陽光下での身体能力60%減】

引き寄せられるように目が覚める。
もちろん見えるのは知らない天井。

起き上がって体を確認してみるが、見事に作成したキャラクターだった。

ヴァンパイアについて考えると脳内に知識が浮かび上がる。

【ヴァンパイア族

世界の夜が産み出した希少種。

不老。暗視。怪力。魔力大。体力大。

人間との見分けが難しい。

【陽光下での身体能力60%減】

…は？陽光下での身体能力60%減？
聞いてない。

あー、でも灰になるよりはましかなあ。

現在地と考えるとまたもや脳内に浮かび上がる。

【大陸名：フィルレイ

国名：ルドン

街：アームルト領 メロセフ

建物：篝火の宿 206】

親切だな。

10歳までの一般常識がどんなものかはわかんないけど、とらあえず生きて行くには困らない程度らしい。

大体15〜20歳で独り立ちかぁ。

私のステータスはどうか？

【ミコトカガリ

ヴァンパイア族 15歳 女

属性 闇、雷、水

槍術士 レベル1

魔術師 レベル1

なし

称号 なし

所属国 なし

所属ギルド なし

装備品 ロムルスの槍、回復の指輪

所持金 107805セル

控え職業 なし

常時発動スキル：暗視、鑑定

任意発動スキル：レポート、闇魔術レベル1、水魔術レベル1、雷魔術レベル1、槍技能レベル1】

ふむ。

常識では魔術師は少なくて才能が必要。

大体人間や獣人だと一万人に1人の割合、エルフとかドワーフだと1000人に1人か。

しかも第二・第三職業と言う認識はなく、武器職業以外は各ギルドでの承認で職業が変わると。

んで職業が変わるとその職業固有のスキルが使えなくなるのか。

ギルドは冒険者ギルド、魔術師ギルド、職人ギルド、神官ギルドか。

あー、テレポートって魔術師固有かあ。

魔術師ギルドじゃなくて冒険者ギルドに登録したいし、あんまり人前で使わないでいようっと。

さて、この槍と指輪の性能はっど…。

【武器鑑定

槍レベル12 ロムルスの槍

所有者 ミコトカガリ

ダメージ率300%】

【装備品鑑定

指輪レベル6 回復の指輪

状態異常耐性60%、体力常時回復6%、魔力常時回復6%】

あはは…、チート武器だよこれ。

しかも所有者が刻まれてるから私以外は持てないとか、なんて都合主義っ。

普段はペンダントサイズのようになっていて、使うときに大きくなるらしい。

さて、状況確認もしたしどうしようかな。

所持金は管理人様がくれたみたいだけど、潤沢すぎるんじゃないだろうか？

年収が一般人で大体50000セル。

それなりの冒険者で大体80000セル。

107805セルは15歳の小娘の持つ金額じゃないだろう…。

大金持つてるの怖いなあ。

盗難的な意味でっ！。

この世界に銀行ってないし…。

ギルドに早く登録してカードもらうかあ。

ギルドカードはお財布もかねてあって、所有者が刻まれるから本人以外は使えない。

まあ、無くしたら見つからない限りその中のお金は無くなるんだけどねっ！

カード自体は再発行可能。

あと冒険者の必須小物、アイテムボックスも買わないと…。

アイテムボックスっていつても形は様々で一般的なバッグや指輪はモチロン、腕輪やネックレスタイプもある。

うん、そうと決まれば早速冒険者ギルドに行きますか。

第三話【陽光下での身体能力60%減】（後書き）

今日の方はこれにて終了。

第四話「現在すでに死にそうです」(前書き)

もう死亡フラグな件(、、)

第四話「現在すでに死にそうです」

一時間前の自分に言いたい。

なぜ陽光下で身体能力が60%減なのを忘れていたんだ。

現在すでに死にそうです。

なるべく日陰を選んでいるが、正直キツイ。

宿屋で聞いた冒険者ギルドまで後少しとは言え、マジ死にそう。

これ、常識知識にはないけど実際体力削られてるっばい……。
回復の指輪がなかったら今頃瀕死かもしれない。

なぜ昼に行動しようと思ったんだ私！

…

……

……

……

そんなこんなで割と危機的な感じで冒険者ギルドに到着。

途中で購入した日傘がなかったら死んでたかもね！

100セルもしたけど良い買い物だったわ。

だいぶ重いけど……。

「すみません、ギルド登録をお願いします。」

空いてるカウンターで事務員さんに伝えるとすごく驚いた顔をされた。
「なんださ！」

「お嬢さんが？えっと遊びかなにかかな？」

「いえ、本気です」

「……………」

「……………」

沈黙されたので沈黙してみる。

「失礼ですが年齢はいくつですか？」

「15歳です」

「……………はあ、まあいいでしょう。こちらについてきてください」

多少戸惑われつつもギルド登録の部屋に案内される。

「これよりギルド登録を行います」

「はい」

青白く光る魔法陣の中央に立つ。

ギルドカードに個人の情報を書き込む作業だ。

ちなみに15歳以下はこの魔法陣が発動しないらしい。

「心を静めてください。少し頭痛を感じるかもしれませんが、すぐに治まるので大丈夫です」

言われて青白く光る魔法陣を見つめると、光が強くなり身体を突き

抜けていく。

頭痛と言うよりも浮遊感を感じながらしばらく動かずにいると光が元に戻る。

「登録完了です、こちらがアナタのカードです」

確認すると名前、種族、性別、年齢、所属ギルド、職業（第一職業のみ）、所持金が記載されている。種族があるのは頂けないなあ。

「所持金などは他人に見せたくないんですけど」

「でしたらこちらの台にカードを乗せて、所持金と種族しか隠せませんが隠すよう念じてください」

言われて隠れるように念じる。

「完了です」

あっさり終わった。

なんだか拍子抜けのような気もするが、こんなものと常識知識が告げている。

「他にご用はございますか？」

「所持金をカードに移すのと、アイテムボックスを購入したいのですが」

「わかりました、受付で行いますのでこちらにどうぞ」

事務員さんが事務的です。

最初の驚きはどこにいったんだろう？

受付カウンターに戻ると早速持ってきたバッグからセルを取り出す。107705セル（白金貨10枚、金貨7枚、銀貨7枚、銅貨5枚）を見て一瞬固まった事務員さんであったが、何事もなかったかのように取り出した箱にセルを入れてカードを上に乗せる。

「……………はい、完了です。あと、あんな大金をあまり貨幣で持ち歩かないでください。」

「はい」

ちよつとした忠告付きでカードを返される。ちなみに箱に入れたセルは消えるらしい。仕組みはよくわからない。

「……………ではアイテムボックスですが、形状はどうなさいますか？」

「腕輪をお願いします」

「わかりました、見本をご用意しますのでしばらくお待ちください」
立ち上がろうとして事務員さんが気がついたように私をみる。

「時間が少しかかりますので、よろしければあちらの依頼掲示板をご覧になっては如何ですか？」

「そうですね、そうします」

言われて掲示板の方を見ると、如何にも冒険者って感じの人がいっぱいいた。

依頼ランクの掲示板を見ると探し物だの、たいていが雑用だった。

まあ、冒険者ギルドってある意味何でも屋だしね。
ちなみに職人ギルドがある意味職業やお店の斡旋所って感じ。

ぼーっと見てるといつの間にか事務員さんが後ろにいてビビった。
この人、実は実力者だったりして。

【個人鑑定

ナパーク 43歳 男

職業 剣術士レベル64

所属ギルド 冒険者ギルド

称号 冒険者ギルドメロセフ支部長】

うええうっ 支部長がなんで受付事務員してんのさああっ！

驚愕に目を開いたままでいても事務員さん…。

基、ナパークさんは気にしないでいるのか普通にカウンターに案内して腕輪を見せてくれた。

「こちらがミコト様の所持金で買えるアイテムボックスの腕輪形状です」

あー、この人は所持金知ってるから絶対買えない物は持ってこなかったのか。

しかし、色々あるんだなあ。

鑑定スキルを使ってよさそうなのを選ぶ。

【装備品鑑定

アイテムボックス 腕輪

素材 金 オブシディアン

容量 6500】

価格 30000セル

【装備品鑑定

アイテムボックス 腕輪

素材 金 サファイア

容量 6800】

価格 32000セル

【装飾品鑑定

アイテムボックス 腕輪

素材 白金 オブシディアン

容量 8500】

価格 52000セル

【装備品鑑定

アイテムボックス 腕輪

素材 白金 エメラルド

容量 9000】

価格 55000セル

高いのか安いのか微妙です！

いや、普通にアイテムボックス自体が高いんだけどね！！
値段に悩んでいるとナパークさんがアドバイスをくれる。

「白金で出来たものは一生物としてお使い頂けますよ」

「やっぱりそうですよね…」

「私のオススメはこちらのオブシディアンのほうです」

おや、てっきり高いほうかと思ったけど違うみたい。

「重量の問題なのですが、エメラルドは重いものを収納するのにはむいていません」

「そうなんですか」

「その点、オブシディアンを使ったものは重量制限がありません」
「へえ」

そんな優れものなのになんでエメラルドのより安いんだろう？

「とはいっても、一般的なドロップ品を収納するにはそこまで重量に気を遣いませんけれども」

「あ、そっか…」

ドロップ品で単品の重量がものすっごくあるものを落とすモンスターなんてそうそう居ない。

居ても超上級者でなければ狩れないだろう。

「それから…ミコト様はおそらく闇属性でしょうからオブシディアンの相性がいいと思いますよ」

「え…」

「申し訳ありません、カード作成の時に種族が見えてしまいましたもので」

「あー、いえ…できれば他言無用でお願いします」

「もちろんでございます」

そっかー、そりゃそうだわ。

しっかし…うん、何だろーう弱みを握られた気分。

「じゃあ、オススメのこれにします」

白金とオブシディアンで出来た腕輪を指差す。

「かしこまりました、所有者を刻みますので少々お待ち下さい」

ナパークさんが他の商品を下げて選んだ腕輪を取り出した台の上に置く。

ギルドカードも置いたので精算も一気にするらしい。

台がほんのり光って所有者を刻み終えたらしい。

本当にこういったことの仕掛けはどうなってるんだらう？

常識知識では「そういうもの」となっている。

オーバーテクノロジー？

第四話「現在すでに死にそうです」（後書き）

補足的なナパーク視点と管理人様視点も近日公開予定です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7095y/>

転生したけど引きこもります。

2011年11月21日22時05分発行